

第 10 回委員会 会議要点録

平成 19 年 11 月 14 日 18 時 30 分～21 時
多摩市役所 特別委員会室

出席者：檜垣正己委員長 江尻京子副委員長 伊藤雅子委員 大木貞嗣委員 笹島
正一委員 白鳥光洋委員

事務局：企画課長 市民活動情報センター長 多摩ボランティアセンター長 企画調
整担当主査 企画課主任

審議

- 政策提言について

今後の予定

- 第 11 回 12 月 6 日(木曜) 18 時 30 分～

【自治推進委員会】

委員 前回に引き続き、人材活用について議論をする。今回、委員会に出席して
いただいている市民活動情報センター長とボランティアセンター長から実
情を聞く。質問があれば委員の方のご発言をお願いします。

ボラセン ボランティアセンターの概略について事業報告で述べていない部分を説
明する。

事務所は総合福祉センター内と永山分室の 2 箇所。職員は正規職員が 2
名、嘱託職員が 1 名です。運営は運営委員会が行い、16 名の委員で構成
された各種専門委員会がある。平成 18 年の 7 月に運営委員会を立ち上
げた。広報ではボランティア通信を年 12 回各回 2,800 部発行している。財
政状況は事業収入として 30 万円ほど。事業は年間 7 講座あり、260 名ほ
どが参加している。登録制度があり、登録されている団体は平成 19 年度で
26 団体。ボランティア団体であれば広く連携することとしている。前年度ま
では登録団体に対し一律助成をしていたが、平成 19 年度から設立 1 年以
内の団体を対象に助成している。ボラン ティアをする市民活動団体への支
援としてセンターの分室の貸し出しをしている。

委員 平成 18 年度と比べ登録団体が 3 団体減ったのは脱退したからか？

ボラセン 登録基準を満たさなくなった団体や自らの意思で脱退した団体がある。た

だし、それらの団体との連携は継続している。団体登録のメリットとして登録団体は3ヶ月前からボランティアセンターの分室の予約ができる。登録していない団体は1ヶ月前から予約ができる。

委員 登録団体は福祉系の団体が多いのか？

ボラセン ボランティアセンターは社会福祉協議会が母体なので、ほとんどが福祉団体。

委員 部屋を借りるのも福祉団体か？

ボラセン 福祉関係とボランティア団体。

委員 市民活動情報センターでの活動団体の情報はどのようなものか？

市民活動 さまざまな市民活動団体の情報を集約している。

委員 ボランティアを求めている人としたい人をつきあわせることはできているか？

ボラセン 一回限りの単発の要請と呼んでいるものが、年間で42件中37件は紹介した。継続の要請は32件紹介で求めがあった内の62%32件紹介した。

委員 どういうものが要請に添えないのか？

ボラセン 時間帯の都合で受けられないケースが多くある。できる限り紹介したいが、継続の要請でよくあるのが、障害児の送迎等の定期的な活動は人数の確保など調整しづらい。

委員 専門分野を持っている人は登録されているか？

ボラセン 専門がある人と単にやってみたいという人がいる。できる限り窓口に来ていただき何ができるか確認をしている。登録者は平成18年度末現在で全体は1000名ほどが登録している。ボラセンでは保険を扱っており、その加入者を含めると、福祉以外に防犯関係の方等も入れて約3000名登録していることになる。

委員 登録しただけで活動をしない人はいるか？

ボラセン そういう人が課題になっている。便りを出すなどのアプローチで活動を促している。

委員 市民活動情報センターには何かをやりたいという人が来るか？

市民活動 問い合わせは多いが、コーディネートというところまでには至っていない。今後さらに情報検索サイトなどを充実させていきたい。

委員 市民活動のコーディネーターを考えているか？

市民活動 コンシェルジュを目指している。市民活動情報センターに来られた方に最初の入り口のご案内をするような感じ。

- 委員 個人から助けて欲しいという問い合わせがあったときは対応できるか？
- ボラセン 内容によってボランティアと有償の違いがある。ボランティアだと対応が難しいケースであれば社会福祉協議会の有償事業に登録している人を派遣することができる。実際緊急の対応は難しいが、二回目以降の利用であれば、緊急であっても内容によって、派遣可能である。
- 委員 登録団体 26 団体の構成はどうなっているか？
- ボラセン 福祉関係が 25 団体、環境関係が 1 団体。
- 委員 福祉関係の相談の外、文化関連の相談を受けることはできるか？
- ボラセン 登録基準を改正し、福祉以外の団体とも幅広く連携することを試みている。中間支援組織として考えていきたい。
- 市民活動 公民館などの登録団体を紹介することや情報検索サイトより紹介する。現在では紹介で終わることが多いが、理想では各団体とのネットワークを活用しその団体までつなげる。直営で運営する意図は、行政と市民団体とのつながりとしての窓口の役割を重視すること。
- 委員 市民活動情報センターの認知度を高めてワンストップサービスをすることができればよいのだが。
- 委員 市民活動情報センター、ボランティアセンター、NPOセンター、公民館のそれぞれの違いが分かりづらいところがある。ボランティアは福祉の外に医療関係が加わり活動の範囲が広まっているが、人材の養成をどうするか？
- ボラセン 基本的に福祉に限るという考えはもっていない。具体的には、総合福祉センターには老人福祉センターで 1000 名ほどが趣味活動をしているが、何か市民活動で活かせることがないか考えている。また、ボラセン主催の講座の受講生たちがボランティア団体を立ち上げるのを支援している。
- 市民活動 公民館では学びを通して活動する、NPOセンターでは必要に応じた課題解決型の支援、ボランティアセンターは福祉系、それぞれ設立時の考えがある。役割分担をする考えや統合する考えもあると思うが、それぞれのセンターの持ち味をいかして活動している。理由としてそれぞれのセンターの切り口が違うということがある。市民活動情報センターはこれから何かをしたいという主に個人の方に対して活動を 紹介するところだが、他センターとの相乗効果を狙っている。
- 委員 中間報告を読むと市民活動情報センターは他のセンターとは位置づけが違い、情報のやりとりが中心と思う。将来的に平行したほうがいいのか？
- 市民活動 今現在はそれぞれのセンターの持ち味を生かす方向になっている。

委員 強力な支援体制にはなっていないと思う。今何が問題と思うか？ 一市民としてどこが行き届かないか聞きたい。

市民活動 当初の狙いは、定年を迎えた人の地域活動の場をコーディネートしたいということだったが、実際はあまりそういうケースはない。有償で仕事の経験を活かして地域に役立てることができないかを考えているようだ。年金も65歳からなので、60歳の定年ですぐボランティアとはならないようだ。ただ、公民館の講座などへの問い合わせは多く、趣味の活動が地域の市民活動に発展していくケースも多いと思うので長い目で見ることが必要がある。

委員 公民館の役割として、市民相互間の活動の支援はするのか？

市民活動 どちらかというと市民活動情報センターやNPOセンターの役割になってくる。

委員 コミュニティセンターは運営協議会の方々が自ら現場に出て問題の解決をも担っており、課題や実情を把握しているが、市民活動情報センターの運営委員の方々は窓口の現状や課題を把握しているのか？

市民活動 市民活動情報センター運営委員会の8人の委員の方々には提言をしていただいているが、窓口にでることはないのでセンターの内部をつぶさに知っているわけではない。

委員 ボランティアセンターの運営委員会の人は最前線で活動しているか？現場を知らないと運営委員会の運営も難しいのでは？

ボラセン 実際に活動をされている方にも参加していただいている。ボランティアセンターが知られていないという課題については専門委員会で取り組んでいる。

委員 ボランティアで文化活動をしたいという要望を受け入れているか？

ボラセン 要望通り受け入れられるかはわからないが、知りえる範囲でつないでいる。

委員 文化活動してみたいという問い合わせに対してどうしているか？

ボラセン 例をあげると陶芸の問い合わせには活動先の紹介をしている。自分たちでという場合は個別に相談を受け付けているが、現状は活動先の紹介となっている。

委員 NPOセンターの主な活動はどのようなものか？

市民活動 会議室の貸し出しや活動の相談など。会議室を使ったパソコン教室は盛況。

委員 こんなことができるという人材情報は、ボランティアセンターは当然受け付けると思うが、市民活動情報センターではどうか？

市民活動 市民活動情報検索サイトを通じて生涯学習振興の人材バンクやスポーツ振興課のスポーツリーダーにつないでいる。

委員 個人情報保護の観点もあるが、多摩市で大きな人材バンクがあればいいのだが。

委員 再構築プランには、人材バンクは実施できなかった事業とある。

市民活動 できるところから始めている。

委員 全国的にも人材バンクを作っても、実際には利活用されていないのが実態。

市民活動 市民活動情報センター内で打ち合わせ等をしている団体に、その団体がやっている活動をし たいという相談を窓口にしに来た人を引き合わせるようなイメージで当初考えていた。しかし、センターにわざわざ団体に来ることは実際にはあまりない。行政 が様々な市民団体とネットワークをつくっていくことの限界もある。

委員 多摩市では市民活動は活発なのか？

市民活動 市民活動をどう捕らえるかにもよるが、公民館活動では活発。活動の範囲は自分の関心があるところにとどまっているのではないかと。

委員 同好会等でボランティアをしたいという比率はどれくらいか？ 福祉等実践的なものは公民館ではあるのか？

委員 公民館で子供を支援する活動をしたことがあったが、その子供達が大きくなって立ち消えになった。

ボラセン 業務で感じることは、近隣市と比べて多摩市は活動の拠点多く、わりと活発に活動を行っているかと認識している。

委員 コミュニティセンターの方が市民活動は進んでいるようだが連携を考えているか？

市民活動 市民の活動を支援するのが市民活動情報センターであり、コミュニティセンターとは重なりあうところも多いが、性格が違う。しかし、連携は必要であると認識している。

ボラセン 社会福祉協議会の事業展開としては、各コミュニティセンターのイベントには参加することも行っている。高齢者理解や福祉相談事業を実施している。

委員 ボランティアセンターの拠点を将来 10 箇所にするという構想は現実的なのか？

ボラセン 配置として中学校地区のイメージで拠点を 10 箇所と考えている。

事務局 10箇所配置することについては、まだボランティアセンターと市で意見が一致していない。

委員 今の枠組みを押し付けるとストレスがある。コミュニティセンターや自治会等を受け皿にして行うことなど、別の展開やシナリオが必要。行政の枠組みでの考えや判断には無理がある。

委員 市民活動に定義はあるか？

市民活動 ない。できるだけ広く受け入れて関わる。

委員 市民活動情報センターには行きづらいので自ら地域に出て行くのがいいのでは？市民活動情報センターの出前事業みたいなことはおもしろいのでは？

市民活動 市民活動情報センターを設立して日が浅いので、どういう情報が求められているのか試行錯誤している。もっと地域に出て行って出前をすることも考えられる。事業をもっと地域に広げていきたい。

委員 ボランティアの広報紙が2,800部ぐらいではなかなか事業の周知はできないのでは？たま広報は唯一市民が広く読む。たま広報を活用してはどうか。

委員 各センターが共同で呼び掛けや受付をすれば市民は便利なのでは？

委員 ボランティア団体の更新は1年更新か？

ボラセン 一年更新。個人登録については、保険登録更新時。

委員 ボランティア保険の負担は、ボランティアセンターがするのか？

ボラセン 保険は個人のためのものだから、個人負担。

委員 災害に関するボランティアの登録はあるか？

ボラセン 現在のところ登録はない。

市民活動 ない。部署は違うが防犯パトロール等の登録はある。

委員 今後必要性が高まるボランティア団体は災害防災になるのでは？大きなテーマになると思う。そういう団体を助成、育成できれば良い。

ボラセン 災害に関するボランティア団体の立ち上げや災害時にボランティアをする個人や団体が市外から来たときの手配について考えている。来年度の重点事業に掲げている。

委員 多摩市で災害時のプロジェクトを立ち上げたと聞いたが。

事務局 災害時要援護者検討を8月に設置した。要援護者の情報の収集と情報の伝達についてのマニュアルを来年度いっぱいまでに作成する予定。

委員 コミュニティセンターで手に負えないことをボランティアセンターや市民活

動情報センターに流すことがあるか？

委員 問題解決型のコミュニティセンターを目指していたが、それだけの力量があるのか疑問。問題意識はあるが、市民活動情報センター等から情報を得て解決するところまでには至っていない。正式にパイプを持つことはいいことだと思う。

委員 市民活動には地域的なものと全市的なものとあるが、それぞれに重要度をつけることができるか？ 災害や福祉は行政が関与しやすいが、生涯学習課は公平中立で関与する必要がないと思うが？

市民活動 地べたのコミュニティとテーマ型とが連携をとっていくことを模索していきたい。連携を地域の中にもどう根付かせることができるかが課題。

委員 NPOセンターにはそのような意識があるか？

市民活動 実態としてはテーマ型の活動を主な対象としていると思う。

ボラセン 今、地域限定のボランティア団体は1つしかない。エリア限定の団体が今後出てくると思う。

委員 ボランティアセンターが、市外で災害が起こったときに市に先駆けて現地に行き市に情報を伝えることや震災が昼間起きた場合に市内の大学生や主婦を巻き込んでボランティアに行ってもらおう仕組みがあると良い。

委員 災害が起こったときのことを具体的に想定すると人材を生かす仕組みを考えることができる。実際に被災した行政の人に聞くとマニュアルは何の役にも立たなかったようだ。マニュアルの作成過程はためになったことがあったそうだが。行政は組織で動かざるを得ないので、本当に役に立つのはボランティアセンター等がどれだけ必要とする人材がいるかを把握していることだ。そのことについて市はサポート的で、市民活動情報センターは大きな窓口になり、ボランティアセンターはもっと地域の中にもっと入って、地域の特性、人材、ニーズを把握していかなければならないと思う。ただ、現状の人員では無理なのではないか？

委員 人材の育成はどう考えるべきか？ 育成よりやる人を使ったほうが良いという考えもあると思うが。

市民活動 行政が活動のきっかけ作りをする必要はあると思う。

ボラセン ボランティアセンターでは育成を重視している。ボランティアセンターの講座受講後に受講者がどういう活動をしているか注視している。活動を立ち上げた後も支援を求められることはあると思う。

委員 講座の卒業者をボランティア団体にする入り口としての役割を公民館が担うことはできるか？

市民活動 公民館の仕事になると思う。

委員 一万人の中にボランティアをしたいひとりの人が埋もれていると、その中からを見つけることは難しいと思う。そういう人こそボランティアの団体に関する情報を知らないので、市で一定の年齢に達した人に通知するのはどうか？

委員 人のつながりなどのしがらみでボランティアをすることがある。実際多摩から電車賃を使ってなじみのある都心において、ボランティア活動をしている話も聞く。

ボラセン 市民活動情報センターとの事業である市民活動探検隊の目的は、地域のことを知って発想が持つということだ。団塊の方々への地域のことを知っていただくアプローチをする展開が大事だと思う。

委員 今年中に人材活用について文書にして提言したいと思う。別の案件である子供110番については人材活用が終わってから考える。次回はまとめをする。

事務局 次回行政評価の概要を報告する。

委員 次回の日程は12月6日6時30分から。これで終了する。

—以上—